

## 第3章 ヒアリング調査の結果



## 3-1 学校関係者、福祉関係団体等の調査結果

### (1)関わりを持っている保護者に見られる課題

#### ①生活の困窮

生活の状況について、公共料金の未払いのほか、修学旅行や卒業アルバムの代金、制服代等が準備できない場合があるなど、困窮している状況の方がいることが指摘されました。

これら生活困窮の背景として、精神疾患や障害等で働くことが難しい方がいることや、ひとり親でフルタイムで働くことができず、所得の水準が低くなってしまいうことについて、様々な団体から指摘されました。また、非正規雇用から正規雇用の仕事に変わることが容易ではないことや、仮にダブルワークをしていても収入が低い水準になってしまう状況があることなども指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等（子ども家庭支援センター、保健センター、保育関係者）で聞かれた意見

**就** …就学児童・生徒に関わる団体等（教育関係者、放課後児童関係者、学習支援団体、フリースクール）で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等（生活保護等担当者、市民活動センター、社会福祉協議会、子ども食堂、若者自立支援団体）で聞かれた意見

**未 就 他** 精神疾患、発達的な課題を抱えており就業が難しい方がいる。どのように仕事を探したらよいか分からない方もいる。

**未 就 他** 母子家庭の方で、就労先が限定されてしまうことがあり、収入面で厳しい場合がある（子どもがいるために時間的な制約等があり、企業に正規雇用してもらえないことがある）。

**他** 子どもが病気の時には仕事を休まなければならない、その場合には収入が少なくなってしまう。

**他** 外国人の方で日本語の理解が十分でなく、就業が難しい方がいる。

**他** 高校を中退して子どもができた場合など、安定した仕事に就いたことがない方がいる。

**他** 長期間非正規雇用であった場合、途中で正社員になることが難しく就労収入を増やすことができない方がいる。

**他** 親が働いていない家庭で育った方など、働くことに対するイメージをもてていない方がいる。

**未** ダブルワークをしても、正社員よりも収入が少ない家庭がある。

**就** 修学旅行や卒業アルバムの代金、制服代等が準備できない家庭がある。

**就** 医療の未受診や公共料金の未払いがある家庭がある。税金の未払いやカードローンなどがあるため、進学に当たって支援資金が借りられない家庭がある。

**就** 経済的なDVなどで、収入はあってもお金が子どもに使われていないことがある。

## ②子どもと過ごす時間の制約

保護者が子どもと過ごす時間の制約について、朝の時間帯・夜の時間帯に仕事をしている場合に子どもと接する時間がもてない方がいることや、忙しくて子どもと向き合う余裕がない方がいることが様々な団体から指摘されました。なお、ひとり親家庭の場合にその傾向が強くなってしまいうことも指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未 就** いくつか仕事を持っており、朝早く仕事に出る時は子どもが何時に起きたかなどを把握していない方がいる。朝・昼・夜とそれぞれ別の仕事をしており、子どもが帰ってきてから寝るまでの間家にいない方がいる。夜の時間帯に仕事をする際に、子どもが夜間に放っておかれることがある。

**未 就** 仕事の疲れもあり、夜、家に帰ったらお風呂、ご飯、寝るだけで子どもと向き合う余裕のない家庭がある。仕事で帰宅時間が遅いことなどにより、子どもと一緒に過ごす時間に食事を摂れない家庭が増えてきている。

**未 就 他** 生活水準を維持するために一生懸命に働くあまり、子どもに時間をかけてあげべきところの見極めができない方がいる。忙しいため、子どものことに手が回っていない方がいる。仕事がいっぱいいっぱい子育てに手が回らず育児放棄のような形になってしまう方がいる。

**就** 自分のことを優先してしまい、ほとんど子どものことをみない方がいる。

**他** ひとり親家庭で、仕事を一生懸命する中で子どもへの関わりが不足してしまう方がいる。

### ③心身の不安定

保護者の不安定な状況に関して、精神疾患や障害があり、家事や子どもの世話などを十分にできない方がいることや、ネグレクトを含む虐待の課題がある方がいることなどが様々な団体から指摘されました。

これら不安定な状況の背景には、生い立ちの中で保護者自身が虐待や DV を受けた経験があることや、子どもに障害があることによる疲れなどがあることが指摘されています。

また、子どもに依存する傾向の方がいることや、保護者の不安定さが子どもの課題を大きなものにしてしまっていることも指摘されました。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未 就 他** うつ病などの精神疾患、発達の課題、障害がある方がいる。うつ傾向の病気などで家事や子どもの世話を十分にできない方がいる。精神的に不安定で、家の中に物が散乱するなど、衛生的に良くない環境になってしまうことがある。病識がないまま、自分の身の回りのことができない状況になっている方がいる。

**未 就** 一日中寝ており子どもに食事を食べさせない・作らない方がいる。「こんな子は産まなければよかった」と子どもの前で言う方がいる。虐待の課題がある家庭がある。

**未 就** 保護者自身も生い立ちの中で虐待や DV 等を受けたことがある場合がある。

**他** 子どもに発達障害があり、どこに行っても子どものことを注意されるということで疲れてしまっている方がいる。

**就** 子どもに依存しており、「子離れ」できていない方が増えている。

**就** 子どもの課題にどう対応してよいかわからず、自分が不安定になることで子どもを不安にし、子どもの課題を更に大きなものにしてしまう方がいる。

#### ④社会的孤立・孤独な育児

社会的孤立・孤独な育児の状況に関して、身の回りに子育てのことなどを相談できる方がいないこと、コミュニケーションが苦手な保護者同士の輪の中に入っていけない人がいること、家庭の状況を知られたくないためにあえて周囲とのつながりをもたない人がいることなどが指摘されました。外国人の方の場合には、日本語ができず、適切な情報が得られていない場合があることも指摘されています。

また、支援が必要と思われる方でも本人に困り感や危機感がないことや、ダイレクトに支援を要請することができないことなどにより、孤立の傾向が強まってしまう状況がうかがえました。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

- 未** **他** 地元から離れて育児をしており、近くに相談する人がいない、子育ての仲間がいない方がいる。子育てひろばに行っても、子育てのことについて相談ができない方が増えている。「話をする人がいない」「受け止めてくれる人がいない」「自分の居場所がない」と感じている方がいる。
- 就** **他** 親族が近くに住んでいても頼れない方がいる。関係が悪く、親族と疎遠な方がいる。
- 未** **就** コミュニケーションが苦手な、友だちが欲しくてもできない方がいる。対人関係が苦手な、自分に起きている問題を出し表すことができなかつたり支援を求められない方がいる。忙しすぎたり、無関心であったりして、周囲との人間関係をうまく築けない方がいる。
- 未** もともと周囲とのつながりを求めない傾向の方がいるほか、生活状況等に関して知られたくない思いから行政の支援に抵抗感のある方がいる。あえて周りの人と関わることを避けている方がいる。
- 就** **他** 外国人の方など、進学や進路のことについて適切な情報が得られていないことがある。学校からのお知らせなどが読めない方がいる。進学などの情報を教えてくれる人が周りにおらず、情報が入りづらい状況の方がいる。
- 未** **他** 周りから見ても課題があると思っても、本人が困り感や問題意識を持っていない方がいる。継続的な支援が必要と思われる方でも、本人に困り感がなかつたり、危機感がなかつたりすることがある。
- 就** **他** 困難な状況を一人で抱えてしまい、疲弊している方がいる。また、それをどう改善していくかということを考えられずにいる方がいる。深刻な状況にある方ほどダイレクトに支援を要請することができない傾向がある。

## (2)関わりを持っている子どもに見られる課題

### ①生活習慣・健康

子どもの生活習慣・健康に関する課題について、保護者からの適切な関わり不足や食事の面での課題が影響して発育・発達に遅れ等が見られる子どもや、身体や衣服の清潔など基本的な生活習慣が身についていない子どもがいること、生活リズムが昼夜逆転している子どもがいることなどが様々な団体から指摘されました。

医療機関の未受診の問題等があり、口腔状態や健康状態に課題が見られる子どもがいることも指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未 就** 保護者が朝ごはんを食べる習慣がなく、子どもにも食べさせないことがある。朝ごはんを食べておらず、給食をたくさん食べる子どもがいる。

**未 就 他** お金がなく離乳食が十分に与えられず、発育に課題が見られる子どもがいる。栄養不足で健康的な身体発達が妨げられる心配のある子どもがいる。3食きちんと食べておらず、インスタント食品が多い子どもがいる。

**未** 乳幼児期から保護者の適切な関わりや愛情を受けないと、発達が遅れがちになる。

**就 他** 基本的な生活習慣や生活リズムが、家庭で身につけていない子どもがいる。例えばお風呂には毎日入る、清潔にしたり毎日着替えたりしなければならない、ごみはごみ箱に捨てるなどを教えられていない子どもがいる。

**未 就 他** 身体・身なりの清潔に課題が見られる子どもがいる。また、そのことが学校でのいじめにつながってしまうことがある。

**未 就 他** 保護者が夜勤明けなどで、朝起きることができず、子どもの幼稚園や保育園の遅刻や欠席が多くなってしまふことがある。生活リズムの乱れ（昼夜逆転）から不登校になっていく子どもがいる。

**未 就** 生活習慣の乱れやネグレクトが影響し、虫歯が多い子どもがいる。医療に十分にかかれず健康面での格差が生じている。体調が悪いのに病院を受診させてもらえない、虫歯があるのに歯医者に行かせてもらえない、などの場合がある。

**就** 学校に行っていないため健康診断を受けていない子どもがいる。

## ②学習

子どもの学習に関する課題について、保護者の関わりの不足や学習機がないなど、学習の環境が整っていない家庭で宿題や提出物の提出が遅れるなどの課題があること、また、そのことが学習意欲や学力の低下に影響する傾向があることなどが指摘されました。

不登校の課題や朝ごはんを食べる習慣がないなどの課題が学力の低下等に影響している可能性があることも指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**就** 授業に集中できず、勉強をつまらなく感じてしまう子どもがいる。宿題に対応できず、保護者が教えないと学習が遅れてしまうことがある。保護者が子どもの勉強を全然みておらず、文字の読み書きなどができない子どもがいる。

**就 他** 自分の勉強機がなく集中して勉強をすることが難しい環境の子どもがいる。学習環境が整っていない家庭があり、宿題や提出物の提出が遅れ、学習意欲も低下する傾向がある。

**他** 保護者が学習や進学に関する意識が高くないと、そのまま子どもの意識にも影響してしまう。

**就** 家庭学習の習慣が身につけていないことで、学年が進むにつれて学力に開きが出てくる可能性がある。

**就** 不登校で学習の機会が減り、学力が低下してしまう子どもがいる。

**就** 障害などもあり、がんばってもどうしても勉強ができない子どもがいる。

**未** 朝ごはんを食べないことが、学習に集中できない原因になっている可能性がある。

**他** ある程度の学力を持って卒業することができないと、正規雇用での就職が難しい。



### ③自己肯定感等の意識

子どもの自己肯定感等の意識に関する課題について、自分自身を否定する言葉を発する子どもや、自信がなく、前向きな気持ちが長続きしない子ども、将来へのイメージがわからない、長期的な視野に立って考えることができない子どもがいることなどが指摘されました。

これらの背景として、保護者から褒められることが少ないことや過干渉・虐待等があること、色々と評価される中で劣等感を持ってしまうこと、保護者の不安定さが子どもにも伝わることなどが指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**就 他** 保護者からの虐待等も影響し、自分を否定する子どもがいる（「自分はダメだ」「かわいがられていない」「いない方がいいんだ」「自分は何で生まれてきたのだろう」「もっと普通の家に生まれたかった」「どうせやっただってできない」などと言う）。親の過干渉や子どもへの否定的な言動が、子どもの自己肯定感に悪影響を及ぼしていることがある。

**就 他** 自信がもてず、前向きな気持ちが長続きしない子どもがいる。色々と評価される中で「できない」ということが心にしみついてしまうのかなと思う子どもがいる。保護者に褒められることが少なく、自分に自信がもてなかったり、人の役に立っているという意識をもてなかったりする子どもがいる。不登校や引きこもりを経験した子どもは自己肯定感が低く、「自分に何ができるかわからない」「自分は社会で貢献できる人間ではない」という意識を持つ場合がある。

**未** 自己肯定感が低く、自暴自棄になり、他の子どもに対して攻撃的になってしまうことがある。

**未** いつまでたっても「赤ちゃん」として扱われることで心がうまく育たないことがある。

**未** 再婚家庭でのきょうだい格差で心理的な課題を抱えることがある。

**就** 将来へのイメージがわからない、長期的な視野に立って考えることができない子どもがいる。

**就 他** 夢を見がちで、非現実的なことを夢として語る子どもがいる。非現実的な夢を持ってしまったり、その夢を実現するためにやるべきことを考えられていない子どもがいる。

**就** 保護者が精神的に不安定だと子どもも不安定になってしまう。経済的な不安を子どもが継続的に感じることにより、将来に対するポジティブな見通しを持つことが難しくなることがある。

#### ④居場所・経験

子どもの居場所・経験に関する課題について、親との愛着関係が十分ではない子どもや、幼少期の遊びなどを通じた経験や集団の中での経験が不足している子ども、経験の不足等により周りとのコミュニケーションがうまく取れない子どもがいることなどが指摘されました。

また、集団の場になじめず不登校になる子どもがいることや、ゲームや SNS にのめり込んでしまう子どもがいること、部活動での経験や夏休み期間の経験などに差がついてしまうことがあること、外国人の子どもや父子世帯の場合に見られる課題があることなども指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未 就** 親との愛着関係が育っていないことで、友だちとの関係をつくるのが難しく、トラブルを起こしてしまったりする子どもがいる。親から投げかけられている言葉を子ども同士の会話でも言ってしまう、友だち関係が悪くなってしまう子どもがいる。

**就** 他者に対する不信感が強く、関わりをもととしない子どもや寂しがり屋で甘えすぎる子どもなど、他者との距離感が測れない子どもがいる。一定の友だちとしか遊ばず、大人との関わりを好む子どもがいる。

**未** 自分で気持ちを静めて感情をコントロールする経験が十分でなく、集団の中で感情を爆発させてしまう子どもがいる。見立て遊びでも役割がわからなかったり、経験不足による孤立化がみられる子どもがいる。

**就 他** 幼稚園・保育園に通っておらず、小学校で初めて集団生活をする子どもがいる。集団の場になじめず不登校になる子どもがいる。

**就** ゲームや SNS にのめり込んでしまう子どもがいる。SNS などに浸り、見知らぬ人と繋がるといことがある。SNS で自己表現はできても、直接人間相手になるとコミュニケーションがうまくできない子どもがいる。

**就** 部活動に入れない子どもがいる。家庭の状況によって夏休み期間の経験に差がついてしまうことがある。

**他** 保護者の都合で学期途中に来日するなど、日本語の学習や文化の違いなどに課題を抱える子どもがいる。

**他** 父子家庭で子どもが女の子の場合、親に相談ができず関係がうまくいかないといことがある。

### (3) 支援の在り方に関する考え

#### ① 保護者への支援体制・環境整備の必要性

保護者に対する支援の在り方については、子育てのことなどについて気軽に雑談・相談できる場所や、妊娠期からの継続的な支援、多様な方法での情報の提供、就労支援等も含む子育て支援の充実、地域での多機関の連携による支援が重要であることなどが指摘されました。

様々な課題に対応するため、個別の支援だけでなく、分野横断的な支援や連携による支援が必要であることがうかがえました。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未** 子育てが孤立化し、子育ての不安や負担感の強い保護者にとっては、地域の中によき理解者がいるだけでも子育てが楽になるのではないかと。

**他** 慣れない土地での育児で頼れる人がいない場合には、相談事に限らず雑談できる場所も必要である。

**就** 子どもにすぐ手を出してしまう方がいるが、その方は自分の話を聞いてもらうことをすごく欲しているのではないかとと思われる。

**他** 何かを要求されるわけではない、ゆるやかな居場所が、保護者にも子どもにも必要である。

**就** 保護者が信頼できる外部とのつながりをつくっておくことが大切である。困ったときに誰かに助けを求められる環境づくりが必要である。

**就** 相談をしやすいような環境や雰囲気、児童相談所・子ども家庭支援センター等関係諸機関との連携が重要である。

**他** 外国から来た方にとって、同じ境遇の人とつながることができる場所があるとよい。

**未** なるべく妊娠期から、課題が見られる方には支援をしていく必要がある。

**未** 継続支援が必要な方に対するフォローが十分ではないと感じることがある。

**就** 切れ目がない形で、保護者の相談に長いスパンで対応できるような、ひとつの家庭に常に寄り添ってあげられるような支援が必要である。

**就** 支援を受けられることの周知や、長期的・継続的に支援や関わりを続けられる仕組みづくりが必要である。

**就** 子育てのコーディネーターを各地域に配置できるとよいのではないかと。

※次ページに続く

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**就** 子育てについて、保護者へのカウンセリングが今後必要なのではないかと。保護者と会話をしながら、教育や育児に関する情報を提供することが必要ではないかと。

**就** 疲弊している保護者は自分でサービスなどを調べ連絡するということが難しいため、学校など保護者が日常的に関わっている場所での情報提供が重要である。

**他** SNS で情報を見る方もいるので、SNS にいろいろな情報を流すことも重要である。

**他** 保護者に対する支援として、就労支援や精神的なサポートなども必要である。

**就** 保護者に対し医療・生活・就労・相談等の支援をより充実させていくことが重要である。

**未** 雇用条件等、子どもとの時間をもてるような雇用体制になることが望ましい。

**就** ひとり親の方の心身の不安定に対して支援をしていくことが重要である。

**未** 保護者の急用時や緊急時に、無料で子どもの一時預かりができることよいのではないかと。

**未** 障害福祉サービスと子育て支援サービスが組み合わさったサービスが受けられることよいのではないかと。

**就** DV やモラル・ハラスメントに苦しむ母子が泊まれる場所があるとよい。

**就** フードバンクやフードドライブの設置が有効である。

**他** 様々な課題が複合的になっているため、横断的な支援が必要である。

**他** 支援体制としても、いろいろなものが複合的に重なり合っていくことが重要である。

**未** 教育・保育施設と保健センターや子ども家庭支援センター等との連携が重要である。

**未** 状況をアセスメントして、課題の内容に応じて他の関係機関との連携を図っていくことが重要である。

**他** 必要に応じて情報を共有して、支援機関・団体同士が連携して支援できることが重要である。

**就** 教育現場と福祉の現場の情報の共有が重要である。

**他** 学校と地域の活動団体との関係、自治会との連携など、様々なネットワークが重要である。

**他** 地域に思いがある人はいるようなので、できる支援の具体的な内容や曜日を明示すると「手伝えるよ」と言う人たちも出てくるのではないかと。

**他** 地域の活動を広げていくことを考えた時に、義務感や使命感などではなく、面白いと思って活動に参加してもらえることが重要である。

## ②子どもへの支援体制・環境整備の必要性

子どもに対する支援の在り方については、発達の状況など子どもの状況に応じた支援、食に関する支援や、自己肯定感が低い子どもや不登校の子どもの居場所づくり、多様な大人と関わる機会の提供などが重要であることが指摘されました。

また、子どもに中長期的に関わり支援をコーディネートする人が必要であること、レッテルを貼ることがないように全ての子どもたちへの対応が必要であること、学校での支援体制づくりや学校卒業後の子どもに対する支援が重要であることなどが指摘されています。

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**未** 発達の状況など、子どもの状況に応じた対応ができる施設・サービス等ができるとうい。

**他** 養育が難しい家庭については、幼児教育の充実などが必要である。家庭の中で学習ができない場合には学習支援など、社会のつながりの中で育てていくことが重要である。

**他** 不登校の傾向が見られる場合など、そうなる前にいかに早く気付いて対策をするかということが重要である。

**就** 食事は摂れているか、お風呂に入っているか、歯を磨いているか、洗濯はしてもらえているか、必要な物は買ってもらえているのかなどを注意深く見守り、必要に応じて外部機関とも連携をとっていくことが重要である。

**就** 子どもがしっかりと朝ごはんを食べることができるようなシステムがあるとよいのではないかな。

**未** 子どもが小学生になった後も、「帰れる場所」「少しでも気持ちを話せる場所」「聞いてもらえる場所」「子どもが生きる場所」があることが重要である。

**就** 学力の低さや家庭環境により自己肯定感が低い児童も、活躍できる場や認められる場があると落ち着いて生活ができる。

**他** 感謝の気持ちを伝えられたり、誰かの役に立ったりすることで自己肯定感を取り戻していくことができる。いろいろな経験の場をつくっていくことが重要である。

**他** 無償で勉強を教えてもらえるところ、居場所となりえるような場所がもう少したくさんあるとうい。

**就** 文化センターなどに支援スポットを置き、子どもの家庭以外の居場所や相談場所ができるとよい。

※次ページに続く

**未** …未就学児に関わる団体等で聞かれた意見 **就** …就学児童・生徒に関わる団体等で聞かれた意見

**他** …その他の福祉関係団体等で聞かれた意見

**就** 学校に行けなくなってしまった子どもには、自信を回復することができる場所、生きていくのに必要な学習が受けられる場所、ほっとできる、いつでも受け入れてもらえる場所が必要である。

**未** 不登校の子どもたちなどに対し、食事の提供や学習支援などをする居場所がもっと整備されるとよい。

**就** 不登校の子どもを支援する場所が市内に複数箇所あってもよいのではないかと。

**他** 不登校の子どもが学校以外でいられる場所も考えていく必要がある。

**就** 不登校や困難を抱える子どもだけでなく、広く中学生・高校生の居場所となるようなところが足りていないのではないかと。

**就** 学校以外でも大人と話せる場を提供し、中学校卒業後も継続して関わられる場所が必要である。

**就** 保護者が精神的に不安定な場合などは、「健康な大人」に会うことも重要と考えられる。

**他** 学生ボランティアのお兄さん・お姉さんとの関わりも重要であるが、包容力のある大人との関わりを持つ機会があるとよい。

**他** ひとりの子どもに中長期的に関わり、支援をコーディネートする人が必要である。

**他** 子どもの支援を行うにあたり、レッテルを貼ることがないように、全ての子どもたちへ対応するスタンスが必要である。

**就** 学校で、教員や支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの大人の人数を増やすことや、教員が子どもと関わる時間が増やすことが重要である。

**他** 社会の仕組みを知る機会がない子どもがいると考えられることから、税金のことや性教育など、学校で教えていくことも重要である。

**他** 高校に進学しなかった子ども、高校を辞めてしまった子どもを支える仕組みが必要である。

**他** 大学等に進学した後の就職の際や、奨学金の返済にあたり課題が出てしまうことがある。就労に結び付けていく支援が必要である。

**他** 地域の中で見守りの目があることやつながりがあることが重要である。



## 3-2 児童扶養手当受給世帯の保護者の回答結果

### ①生活や家計に関する悩み

保護者自身のことや生活や仕事のことなどに関する悩みとしては、子どもが小さいうちはフルタイムで働くことができず所得の水準が低くなってしまいう状況があることや、夜遅い時間の子どもの世話が難しくなってしまうこと、仕事・収入が不安定で将来が不安であることなどが挙げられています。

フルタイムでの就業が難しいこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが小さく正社員で働くのが難しいためパートで働いている。将来の生活費に不安がある。</li> <li>○現在は正職員になり収入が増え生活が安定してきた。子どもが中学校に入るまでは夜勤や超勤ができず、そのことで正職員にはなれず金銭面で大変だった。</li> <li>○子どもが不安定で学校の送り迎えが必要であるため正社員で働くことができない。</li> <li>○時給で働いており、休むと収入減になり収入が安定しない。子どもが病気になったときにみてくれる人がいない。</li> </ul>
仕事の時間帯や曜日のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会社が家から遠く、仕事の帰りが遅い。夜は子どもの世話のためにひとり親ホームヘルプサービスを利用している。</li> <li>○現在の仕事はシフトにあまり入れなくなった。経済的な面でも将来が不安だったので転職をする予定である。</li> <li>○仕事の拘束時間が長い、時間を減らすと収入も減ってしまう。仕事の時間が長いため子どもの宿題や提出物などが見きれない。</li> <li>○小学生の子どものため、土日などの仕事が増やせない。</li> <li>○夜勤があるのが悩み。夜勤の間は近くに住む祖父が世話をしてくれている。子どもを理由に仕事を休んだり夜勤を断るのは心苦しい。</li> <li>○収入が少ない。子どもがいるために収入を増やしたくても遅くまで働けない。</li> </ul>
子どものこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもが小さいときは、土曜日の学童保育の開始時間が遅く、ひとりにさせるのが不安だったことがある。</li> <li>○塾代がかかるので、現在精一杯仕事をしている。転職したいが会社に人がいないので辞めづらく、続けている。</li> </ul>
将来の不安など	<ul style="list-style-type: none"> <li>○都営・市営住宅に申し込んでいるが入れない。</li> <li>○前夫から金銭的な要求があり、貸しているが返却されていない。住宅ローンも払い続けている。</li> <li>○生活・仕事について将来が不安。現在傷病手当で生活している。</li> <li>○子どもの教育費を、教育ローンを借りて支払っている。仕事の収入が不安定で将来が不安である。預金はしているがなかなか思うようにたまらない。</li> </ul>

## ②子ども・子育てに関する悩み

子育てのこと、子どもの学校生活や学習状況、進学や進路のことなどに関する悩みとしては、進学や学習塾にかかる費用負担のことや、子どもの障害のことなどが挙げられています。

<p><b>進学や学習塾等にかかる費用のこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○塾代や将来の学費、学童保育にかかる費用が負担である。</li> <li>○教育費（塾代）が心配。お金がないということは子どもには言っていないが、私立の学校に進学するとなると対応できるかわからない。</li> <li>○都立高校に進学してほしい。資格を取りたいと言っているが、中学校卒業後すぐには専門学校に行くお金がないため、高校卒業後に奨学金で行ってほしいと思っている。</li> <li>○高校・大学の費用が不安である。金銭面で頼れる人がいない。</li> <li>○将来的に圧迫されてしまうため、貸与奨学金は借りないようにし、給付型の奨学金に申し込みをしたいと考えている。小学生の学習支援を充実してほしい。金銭的に塾は難しい。</li> <li>○都立高校に受かってほしいが、だめだった場合にはお金がない。経済的問題で塾に行かせていない。他の子どもより学習時間が足りておらず、わからない時に質問をすることができない。</li> </ul>
<p><b>子どもの障害のこと</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子どもに発達障害があり、今後も良い先生に対応してもらえかが不安である。</li> <li>○子どもが発達障害と診断されたことがある。受験、学習、生活、友人、実家との関係、スマートフォンの利用など、いろいろ問題があり悩んでいる。</li> <li>○発達障害があることがわかり、通院・投薬をしている。特別支援学級にいつているが、学力がつくようになるのか不安である。</li> <li>○子どもに学習障害があり祖母にみてもらっているが、現在子どもが祖母に対して反抗的である。</li> </ul>
<p><b>その他子育てのことなど</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ひとり親であることを子どもにどう伝えるかが難しい。</li> <li>○小学校で集団登校がなく、ひとりで行かせることが心配。</li> <li>○パソコンなど、将来につながっていくような授業が充実するとよい。受験に対する学習支援が充実するとよい。</li> <li>○金銭面が不安だが、子どもの希望に沿うようにしたい。後悔はさせたくない。</li> <li>○塾に入っているが、本人のやる気がなく成績が上がらない。</li> </ul>



### ③支援に関する意見や要望

子育て世帯やひとり親世帯に対する支援に関する意見や要望としては、子育てと仕事の両立を可能にするための就労等の支援や、住居に関する支援、子どもの学習支援などが挙げられています。

また、相談窓口・機関について、相談内容によって分かれるのではなく総合的にサポートし気軽に相談できる場所が必要であることなども指摘されています。

就労等の支援のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母子家庭等高等職業訓練促進給付金の対象となる資格をもっと増やしてほしい。</li> <li>○親の転職支援や借入金の制度を充実させてほしい。</li> <li>○親の就職支援をしてほしい。どう相談してよいかわからない。</li> <li>○子育て中の人に対する雇用者側の配慮を促してほしい。子育て中の女性が活躍できる職場がほしい。</li> </ul>
子育て支援サービスなどの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遅い時間まで家庭で子どもをみてる人がほしい。学童保育やひとり親ホームヘルプサービスの年齢制限が困る。夏休み中の子どもの居場所が少ない。</li> <li>○子どもが小さかった頃は、病気になったときに預け先がほしかった。自営業のため休むと収入に影響してしまう。収入に応じて病児保育料も変わるとよい。</li> <li>○ベビーシッター制度があるとよい。家族みたいに密になれる関係の人がよい。府中市に転入時に保育所に入れられないということがあって困った。</li> <li>○介護と子育ての両立をしている人向けに一時預かりの時間を増やしてほしい。母親（自分）が息抜きできるような環境がほしい。</li> <li>○自分が病気やケガで働けなくなった時に無利子で一時的に貸付してくれる制度があるとよい。仕事と子育ての両立ができるよう、病児保育の充実など継続的に働きやすい環境を整えてほしい。</li> </ul>
住居に関する支援のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市営住宅の負担がもっと減るとよい。</li> <li>○母子家庭の人が入れる公営の住居があるとよい。又は、家賃補助をしてほしい。同じ環境の人が集まれば悩みなども話すことができる。</li> <li>○小学校の学区の周りには都営・市営住宅がなく、申し込みに迷ってしまう。住居に関する補助があるとよい。</li> </ul>
子どもの学習支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○15歳以降の学習面での援助や、進学費用に対する援助がほしい。進学を希望する中学校卒業後の子どもに対する援助がほしい。</li> <li>○学習支援をしてくれる場を学校に設けたり、塾代の援助をしてほしい。</li> </ul>
相談窓口等のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○母親（自分）の心のケアをしてほしい。病院に行くと言葉をもらうだけなので、話を聞いてくれてカウンセリングしてくれる、問題の解決に結びつくような相談機関がほしい。</li> <li>○総合的な相談や、トラブルがあったときに相談できるところがほしい。</li> <li>○現在相談内容により相談先がわかれているが、総合的にサポートしてくれて気軽に相談できる場所がほしい。</li> <li>○都立入試の相談や、高校の学費の金銭的な援助、親の就労支援（母子家庭の優遇制度）など、総合的に教えてほしい。どこに相談に行ってもいいかわからない。</li> <li>○相談窓口の開設時間は9時～17時であるが、もっと長くしてほしい。</li> </ul>

